

登場人物の行動描写から心情を的確にとらえること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解することができない。

〈H27 ひょうごつまずき状況調査結果から見えたつまずき〉

- ①「あなたは、国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を整理しながら読んでいますか。」
「どちらかといえばそうしていない・そうしていない」の割合
(1年：27.0% 2年：28.5% 3年：30.5%)
- ②「あなたは、国語の授業で書いた文章を友達と読み合ったり、助言し合ったりする学習をしていますか。」
「どちらかといえばそうしている・そうしている」の割合 (小学校：53.8% 中学校：35.0%)
- ③「あなたは、国語のどんな勉強が好きですか。」
「グループなどで、話し合い活動を行う時間」…44.5%



- ・学年が上がるにつれ、文章も長く難解になり、読むことへの抵抗感が強くなる傾向がある。
- ・話し合い学習に興味をもつ生徒が多いが、考えを深め合う話し合いには至っていない。

実践の概要

単元名

関係を解く

『故郷』 東京書籍

目標 3つの課題について考え、話し合うことで、「魯迅」が伝えようとしたことをつかむ。

内容 ・3つの課題について分担を決め、各自で取り組む。

- ・異なる課題の者同士で班を作り、意見交流する。
- ・同じ課題の班に戻り、学習成果を交流し、自分たちの結論を出す。
- ・クラス全体で、互いの班の考えを発表させる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第3学年	関係を解く	登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解することができない。
第2学年	描写を味わう	場面の展開をとらえながら、文章全体のつながりを考えることができない。
第1学年	作品を読み解く	登場人物の行動描写から心情を的確にとらえることができない。

単元末の目指す姿

- ・グループの代表として意見を述べるために、さらに深く読み取ろうとし、場面や登場人物の描写に根拠を求めようとする。
- ・複数の課題に対する考えを比較することを通して、登場人物の設定や心情・情景の描写をもとに主題を考えることができる。

異なる課題の者が集まった班で交流して深まったことを、同じ課題の班で伝え合う活動を取り入れる。

活動のねらい ▶ 異なる課題に対する考えを比較することで、様々な観点から作品の主題について考えられるようにする。

【活動の流れ】

- ①3つの課題を示し、分担を決める。
- ②分担した課題について、個人で考えをまとめる。
- ③同じ課題の班で、考えを交流する。
- ④異なる課題の者で班を作り、それぞれの課題についての考えを交流する。
- ⑤同じ考えの班に戻り、異なる班の考えと、それに対して自分が考えたことを交流する。

ここがポイント

- 異なる課題に対する考えを比較し、共通点を考えさせる。
- 作品の主題が何なのかを考えながら交流するように指示をする。
- 元の班に戻って説明する際には、異なる課題の班で出された意見をそのまま伝えるのではなく、共通点をまとめたり、自分の考えを付け加えたりさせる。

授業の様子

〈今回の学習で考える3つの課題〉

- A 登場人物の関係をまとめる。
- B 二つの「月」の描写を比較する。
- C 「ルントー」の望むものと「私」の望むものを比較する。



すぐに手に入るものとそうではないもの。難しいなあ。

生活の苦しさが、性格や人間関係を変えたという意見が多かったよ。

「金色の丸い月」は、きっと美しい故郷や新しい生活を象徴しているんだよ。

若い世代に新しい生活をもってほしいということだと思うな。

A・B・Cの課題から見たことは「新しい生活」だね。

【期待される生徒の姿】

- 異なる課題からアプローチすることで、作品の主題についての考えを深めることができ、対話的な学びにつながる。
- グループの代表として意見を述べるために、場面や登場人物の描写に根拠を求めようとするができる。
- 全員が自分の言葉で説明し直すことで、読み取ったことやそれに対する自分の考えを再確認することができる。